海外派遣プログラム詳細情報

（2025年4月時点）

プログラム	派遣先大学（企業等）	履修	対象学生 B1	B2	B3	B4	M1	M2	D1	D2	D3	派遣人数	支援（数字は下記奨学金情報参照）
交換留学	学生交流協定校	単位認定有	●	●	●	●	●	●	●	●	●	各大学2名程度	①日本学生支援機構
海外探検隊	シンガポール国立大学、Qian Hu、Prime Aquaculture（シンガポール）、プラパ大学（タイ）、ハノイ工科大学、ベトナム科学技術アカデミー、ベトナム水産物輸出加工協会（ベトナム）（2024年実績）	2単位	●	●	●	●						毎回各国4名	①日本学生支援機構 ②学術研究奨励基金 ③国際交流基金
指導教員立案型	Friedrich-Loeffler-Institut（ドイツ）、ANIMAL HEALTH RESEARCH centre（スペイン）、Thai Catering（タイ）、江原大学校（韓国）、華東師範大学（中国）、チュラロンコン大学（タイ）、シンガポール国立大学（2023年実績）	2単位（B4）				●	●	●	●	●	●	・学部生14名程度 ・大学院生10名程度	①日本学生支援機構 ②学術研究奨励基金 ③国際交流基金 ②③は学部生対象
OQEANOUS Plus プログラム													
STP（Short-Term Program サマースクール）	上海海洋大学（中国） 韓国海洋大学校（韓国）の内1～2校	2単位				●＊1	●					5名	航空券提供
IJP（International Joint Program:海洋分野における国際協働教育プログラム）	チュラロンコン大学（タイ）、カセサート大学（タイ）、ボゴール農科大学（インドネシア）、上海海洋大学（中国）、韓国海洋大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）	6単位以上				●＊1	●					各大学1～2名	①日本学生支援機構 航空券提供
DDP（Double Degree Program: 共同学位プログラム）	上海海洋大学（中国） 韓国海洋大学校（韓国）	ダブルディグリー					●		●			各大学1～2名	①日本学生支援機構 航空券提供
	カセサート大学（タイ）						●					1名	①日本学生支援機構 航空券提供
METIS プログラム													
CTEX（Credit Transfer Exchange Courses: 分野横断型・単位互換を伴う交換留学）	南デンマーク大学（デンマーク）、デンマーク工科大学（デンマーク）インターンシップのみ、ノルウェー科学技術大学（ノルウェー）、ノルウェー北極大学（ノルウェー）、スタバンゲル大学（ノルウェー）、ノード大学（ノルウェー）	30ECTS				●＊1	●	●				各大学1～2名	①日本学生支援機構 ②学術研究奨励基金 ③国際交流基金 航空券一部補助
Internship（インターンシップ）		非単位					●	●	●	●	●	各大学1～2名	①日本学生支援機構 航空券一部補助
JICA大学連携海外協力隊	セントルシア（水産局）	非単位	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2名程度	JICA（渡航費、生活費）

＊1　大学院進学を希望する者

奨学金情報

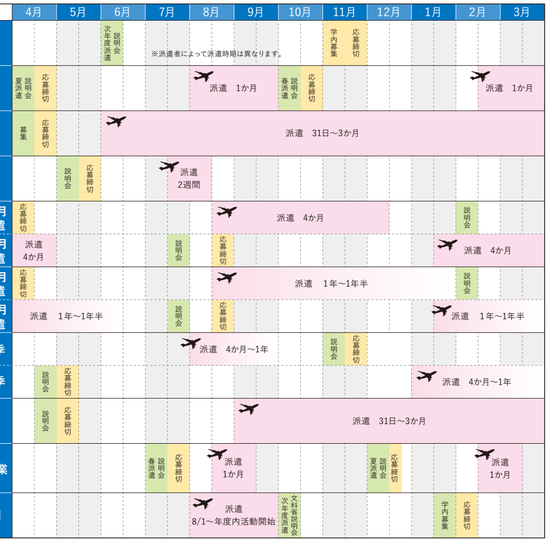
① **日本学生支援機構（JASSO）** 文部科学省が管轄する独立行政法人の留学生支援事業における海外留学支援制度奨学金。申請資格要件あり。

② **海洋生命科学部及び海洋資源環境学部学術研究奨励基金** 海洋生命科学部生、海洋資源環境学部生対象の奨学金

③ **海洋工学部国際交流基金** 海洋工学部生対象の奨学金

④ **文部科学省トビタテ留学JAPAN** 官民協働の海外留学支援制度奨学金。申請資格要件あり。大学推薦を得た後、面接等選考あり。個人で計画したプログラムにて申請可能。

応募スケジュール・派遣期間



※ 派遣期間が変更となる場合があります。

英語教育の強化

海洋生命科学部、海洋資源環境学部では、TOEIC L&R スコア600点以上を4年次への進級要件として定めています。また、海洋工学部でも外部英語資格試験のスコア（CEFR B1 程度）の取得を4年次進級要件としています。

支援策として、各学部にて充実した英語教育を行い、校内にて定期的にTOEIC L&R IPテストを実施しています。

また、個々の目的・レベルに合った英語学習ができるスペースとしてグローバルコモンを設置、英語学習アドバイザーによるカウンセリングも行っています。

グローバルコモン利用案内

グローバルコモンは、英語等の語学力を向上させるために設けられた学習スペースです。外国語教材としての書籍や映画、DVD等、様々な語学学習教材をそろえています。

グローバルコモン利用の方は、最初にインフォメーションカウンターにて受付簿に記入をお願いします。CD、DVDの貸し出しもこちらで行います。

■ 時　間：9:00～18:00（月～金　祝祭日を除く）　■ 場　所：品川キャンパス　大学会館2階

■ 連絡先：グローバル教育研究推進機構　Tel 03-5463-0816　Email global@m.kaiyodai.ac.jp

グローバルステージ

英語学習アドバイザーによるカウンセリング

自分の目標や生活・学習スタイルに合わせ英語の力を着実につけていけるよう、英語学習アドバイザーがサポートします。TOEICのスコアアップ法や英語力をアップさせたいけれど、勉強方法が分からない、効果的な勉強方法を教えて欲しいといった方は、ぜひカウンセリングを受けてください。

利用方法
・1回25分の予約制、グローバルコモンまたはホームページから予約

English Salon

ネイティブスピーカー担当の英語サロンです。日常的なトピックを通じて、楽しくスピーキング力を強化するカジュアルな場です。

個人ブース（20席）

各席にCDプレーヤーを設置。書籍やCD等、各種英語教材を利用した学習ができます。英語学習ソフト「超字幕」で「ハリーポッター」をはじめ800本以上の映画が視聴できます。（日英字幕を同時表示、単語の意味を瞬時表示、セリフ単位で再生可能）

防音ブース（3室）

スピーキングやシャドーイングの練習にご利用ください。

ブックツリー

TOEIC、IELTS、TOEFL等各種英語検定試験対策のための書籍、CDを始め、語学力アップ、国際交流関係の資料も各種用意しています。また、映画・海外ドラマDVDも最新物から名作映画まで多数を用意しています。リスニングや会話表現のレベルアップにご利用ください。

プログラム問い合わせ先

交換留学・トビタテ留学JAPAN
国際・教学支援課留学生係
Email : ks-ryuu@o.kaiyodai.ac.jp

OQEANOUS Plus
国際・教学支援課OQEANOUS Plus担当
Email : oqeanous@m.kaiyodai.ac.jp

METIS
国際・教学支援課METIS担当
Email : metis2024@m.kaiyodai.ac.jp

海外探検隊
グローバル教育研究推進機構
Email : global@m.kaiyodai.ac.jp

JICA・大学連携「海外協力隊」
国際・教学支援課管理係
Email : ks-kanri@o.kaiyodai.ac.jp

留学・海外派遣情報等は、以下のSNSでも発信しています。

（Twitter）@tumsat_global　　Instagram tumsat_global

国立大学法人
東京海洋大学
Tokyo University of Marine Science and Technology

グローバル人材育成プログラム

Global Human Resources Development Program

東京海洋大学は、日本という国の枠を超えて、「世界人」として未知の世界に挑戦できる「グローバル人材」の育成を推進しています。

- 英語を用いて自分の言葉で自分の考えを発信できる
- 論理的な自己表現、討論力を備えている
- 異文化を深く理解し、多様な価値観を享受できる

東京海洋大学のグローバル教育

東京海洋大学は、海洋を巡る国境を越えた地球規模の諸課題の解決に貢献できる、グローバル人材の育成に力を入れています。
高い専門知識・技術と共に、主に次の能力を持つ世界で活躍する人材を育成するため、海外派遣プログラム、英語教育の充実に努めています。

- 諸課題をグローバルな視野で認識し、自ら解決に向けたプランを立案し、そのプランを論理的・戦略的思考のもとに実現できる。
- 文化や専門分野が異なる人とも協調し、円滑なコミュニケーションを取りながら、チームで課題に取り組むことができる。
- 様々なシチュエーションに応じて、実践的な英語力を用いて課題解決に向けた交渉を行うことができる。

留学に向けた To Do

留学計画を考える
目的・派遣先大学・期間・資金について検討する。

情報収集を行う
説明会に参加する。教員、国際・教学支援課、グローバルコモンへ相談する。

スキルアップを図る
TOEICなどの英語スコアを目標値まで上げる（プログラム参加・奨学金支給の要件）。

海外派遣プログラム

最新の情報は各ホームページQRコードからご覧ください。
この他、海洋資源環境学部、海洋工学部では、学部独自の海外派遣プログラムを利用できることがあります。詳しくは教務職員にお問い合わせください。

短期派遣プログラム（1か月～）
海外探検隊
学部生　単位取得可

2013年に開始した海外探検隊では、毎年夏と春に約1か月間、東南アジア（タイ、シンガポール、ベトナム）を中心に学部生が派遣されます。最大の特徴は、英語による研究機関での実習や企業インターン等の機会を海外の地でえられることです。また、2025年度より海外探検隊オンラインプログラム（英語で講義）が始まり、海外の大学と交流します。両プログラムとも、授業科目「海外派遣キャリア演習」または「長期学外実習（海外）」の単位履修として取り扱われます。TOEICスコア600点以上が必須条件です。

短期派遣プログラム（1か月～）
指導教員立案型
学部4年生　単位取得可　博士前期・後期課程学生

学部4年生及び大学院生を対象として指導教員が派遣計画を立案する海外派遣プログラムです。本学と学生交流に関する覚書等締結している協定校や研究所等で1～3か月程度、研究活動を行います。学部4年次生は「海外派遣キャリア演習」または「長期学外実習（海外）」（海外探検隊（指導教員立案型））の履修として取り扱われます。

サマープログラム（2週間）
OQEANOUS Plus STP（ショートターム・プログラム）
学部生（院進学予定者）　博士前期課程学生　単位取得可

本学では中韓（上海海洋大学、韓国海洋大学校）及びASEAN（カセサート大学、チュラロンコン大学（以上タイ）、マラヤ大学（マレーシア）、ボゴール農科大学（インドネシア））の6大学と共同で「オケアヌスプラス留学プログラム」を推進し、その一環としてオンライン講義、フィールドトリップやグループワークを体験してもらう2週間程度の合同サマープログラムを実施しています。本学の学生は大学院の科目として2単位を取得できます。

長期派遣プログラム（1年～）
OQEANOUS Plus DDP（ダブルディグリープログラム）
博士前期・後期課程学生　単位取得可

博士前期課程／後期課程の学生を対象に、オケアヌスプラス留学プログラムDDPの協定校へ2セメスター（前期）／3セメスター（後期）以上滞在し、本学及び派遣先大学の双方で修士／博士論文研究を行い、学位取得（ダブルディグリー）を目指すプログラムです。

オケアヌスプラスDDP実施協定校：2023年度現在、前期課程3校（カセサート大学、韓国海洋大学校及び上海海洋大学）、後期課程2校（韓国海洋大学校及び上海海洋大学）

学部1～3年生　学部4年生　大学院前期課程　大学院後期課程

中長期派遣プログラム（1学期～1年）
交換留学
学部生　博士前期・後期課程学生　単位取得可

アジア、北米、欧州等の協定校との間で、授業料等不徴収による交換留学を実施しています。

派遣先大学で取得した単位は、東京海洋大学の単位として認定される科目もあります。各国を代表する協定校での大学生活を経験することにより、国際感覚の育成と視野の拡大を目指すものです。通常、6月に派遣説明会が行われ、派遣は翌年度の4月以降となります。

中長期派遣プログラム（1学期～1年）
OQEANOUS Plus IJP（国際協働教育プログラム）
学部生（院進学予定者）　博士前期課程学生　単位取得可

博士前期課程の学生を対象に、オケアヌスプラス留学プログラムの協定校へ1セメスター以上滞在し6単位以上の単位取得を目指すプログラムです。単位互換の協定により、派遣先大学で取得した単位は規定に基づき本学の大学院における取得単位として認定されます。

中長期派遣プログラム（1学期～1年）
METIS CTEX（分野横断型・単位互換を伴う交換留学）
学部生（院進学予定者）　博士前期課程学生　単位取得可

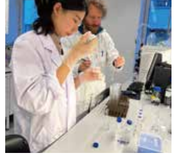
本学では、2024年度から北欧6大学（南デンマーク大学、デンマーク工科大学（以上デンマーク）、ノルウェー科学技術大学、ノルウェー北極大学、スタバンゲル大学及びノード大学（以上ノルウェー））と連携し、「METISプログラム」を実施しています。CTEXでは、協定大学へ1セメスター又は2セメスター（4カ月～1年）滞在し、30ECTSの単位取得を目指します。取得した単位は、15単位に互換され、博士前期課程選択科目に含めることができます（上限10単位）。

METIS
Japan-Nordic Collaborative Program of Marine Education toward the Innovation and Sustainability

短期派遣プログラム（1～3か月）
METIS Internship
博士前期・後期課程学生

研究プロジェクト型／就業体験型インターンシップ派遣を実施しています。派遣学生はコンソーシアム大学や、参加関連機関 Nofima AS（ノルウェー食品・漁業・水産養殖研究所）の他、企業や大学、研究機関でインターンシップを行います。

インターンシップの内容は教員がアレンジし、指導教員を通じて申請します。



その他プログラム
JICA・大学連携「海外協力隊」
学部生　博士前期・後期課程学生

独立行政法人国際協力機構（JICA）が大学と連携し、大学の専門性とリソース（教職員、学生等）を活用して開発途上国の課題を解決しようとする「JICA-大学連携『海外協力隊』派遣事業」を活用し、「水産分野の持続可能な開発」実現に向けた活動に参加する短期派遣プログラムです。

派遣先国・地域は、セントルシア国水産局（ポイントサブレ環境保護区）で、実際の活動は、水産セクター等の基礎情報収集調査の実施や基礎情報収集調査の結果を分析、海洋資源管理区等での生態系調査を行います。

Students' Voices from Programs 体験談

短期派遣プログラム 海外探検隊
1か月の海外探検隊シンガポールプログラムに参加しました。以前は事前準備や計画に時間をかけてしまいがちでしたが、参加後は、何事もとりあえず実行してみるという決断が出来るようになりました。これは、シンガポールのスピーディで合理的な国民性に触れたおかげです。魚の養殖会社でのインターンシップや、シンガポール国立大学でのサンゴの研究活動では折に触れ、その国民性が国の発展につながっていると実感しました。1か月ではありましたが、専門分野外のことにも真剣に向き合うことで、新たな知見を得られました。

【2023年度参加】海事システム工学科 学部2年生

短期派遣プログラム 指導教員立案型
指導教員立案型の海外探検隊として、ドイツのFriedrich-Loeffler-Institutで1か月間の研修を行いました。同派遣の特徴は、活動内容が「体験」ではなく「自身の研究」であることだと思います。実験の日程や内容は用意されたものではなく自分で組み立て、現地の研究室では器具の使い方や試薬の調整、実験方法などに関してアドバイスをいただきながら研究を進めました。実際に研究者として働いている方々の中で実験を行うことで研究に対する考え方や姿勢を学び、大きな刺激を受けました。

【2023年度参加】海洋生物資源学科 学部4年生

中・長期派遣プログラム 交換留学
ノルウェー北極大学（UiT）では、国際マーケティングと持続可能な観光開発について学びました。現地の生徒は少なく、他のヨーロッパ圏からの留学生が8割程度でした。授業はインタラクティブに行われ、クラスにアジア人が自分一人だけだったので、頻繁に意見を言う機会をもらいました。始めのうちは自分だけ言葉に詰まり、悔しい思いを何回もしましたが、3か月が過ぎた頃にはより深い議論が出来るようになりました。週末は友人とドライブをしたり、タラを釣りに行ったり、オーロラも見られました。適応に苦しむときもありましたが、振り返れば貴重な体験になりました。

【2024年度参加】流通情報工学科 学部4年生

中・長期派遣プログラム 交換留学
私はタイのバンコクにあるカセサート大学の工学部で交換留学を経験しました。留学生はInternational Programに所属し、授業はすべて英語で行われ、タイの学生や主にヨーロッパからの留学生とグループワークやプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力を高めました。英語力に苦戦しましたが、会話を重ねることで自信をつけ、異文化理解を深めることができました。タイの学生や教授は親切で、フィールドワークを通じて他国の文化を学ぶ機会も得ました。バンコクは暑かったものの、週末には世界遺産のアユタヤや寺院などを訪れ、充実した時間を過ごしました。留学は貴重な経験であり、自分を成長させる素晴らしい機会だと感じました。

【2024年度参加】海洋電子機械工学科 学部2年生

サマープログラム OQEANOUS Plus STP
本プログラムでは、約2週間の間にオンライン講義を受けた後、韓国・日本にて他国の学生と共にフィールドワークを行い、最終日にチームでプレゼンテーションを行うというものでした。プログラム全体を通して普段関わることない他国の学生とコミュニケーションを取りながら意見を交換する機会は貴重な機会になったと思います。特に全員が英語ネイティブでない中、英語を通じて交友を深めることができ自信に繋がった反面、さらに自身の英語力を更に伸ばしたいと学習のモチベーションを高めることができました。

【2023年度参加】海運ロジスティクス専攻 修士1年生

その他プログラム JICA・大学連携「海外協力隊」
コバルトブルーのカリブ海。カラフルな家と熱帯雨林と青い空。私たちはそんな国、セントルシアにボランティア派遣されました。環境教育を中心に活動すると決めたものの、現地の情報収集に苦戦、電話では発音の癖が強い英語に撃沈した他、真のニーズが掴めないということに直面しました。それでも出来ることをと試行錯誤し、「環境問題ポスター」「危険生物ハンドブック」「環境教育カードゲーム」の3種類を作成し、プログラムを成功させました。現地特産品のラム酒とビールで乾杯した寝不足の最後の日は、達成感に溢れた忘れられない1日です。

【2023年度参加】海洋政策文化学科 学部3年生

卒業生の声

2017年度博士前期課程修了 外資系メーカー勤務、オランダ駐在
私は大学３年生の夏に海外探検隊のプログラムに参加しました。1か月のプログラムですが、現地企業でのインターンや、大学での研究室体験など濃密な4週間で、次は自分の研究テーマを持って長期留学に挑戦したいという気持ちが強くなったことを覚えています。大学院では交換留学の制度を使わない留学となったので、留学先との調整や奨学金の獲得のためのトビタテ留学JAPANの採択など前例がないことも多く綱渡りな日々でしたが、“まず挑戦してみる”という精神で飛び込んだことで、海外での繋がりや、大学外でトビタテの繋がりができ、たくさんの学びがありました。卒業後は外資系メーカーの日本法人に就職し、現在は同じ会社の本社機能を担っているオランダ社に現地採用として転籍して働いています。海外で何かする、ということは日本で同じことをするよりもハードルが高く感じるかもしれませんが、色々な世界を経験することで、本当は何に関心があり、何がしたいのか、ということが分かり、そのあとの自分らしいキャリアや人生にもつながっていくと考えるようになりました。まずは新しい世界に挑戦してみること！応援しています！

2021年度博士前期課程修了 JICA-国際協力機構勤務
知らないことを知り、何かを変え、この先の選択肢を増やすためには、何か新しいことに挑戦する必要があります。私は、幼少期に体験した、身近な自然環境の変化から、水質環境の保全に関心を持ち、海洋大を志望しました。そして、1年生の夏「海外探検隊プログラム」に参加し、日本・現地企業・日系団体への訪問や、2大学でのインターンを通し、英語や専門科目の学びを深める大切さと、今後のキャリアを考える機会に恵まれたのです。専門授業の受講や富栄養化、赤潮に関連した研究等学内での活動に励む中で、さらに、交換留学生として、カナダのヴィクトリア大学で学びました。個人の活動としては、約20の国地域への訪問・ホームステイ、その他インターン等を通し、海外で住むことや働くこと、自分の生き方等についての解像度を上げていきました。これらの知見を生かし、現在はJICAにて、主に東南アジアを対象とした開発計画や制度支援、人材能力開発など、汚水セクターに係る政府開発援助に携わっています。何か新しいことに挑戦するために、大学の国際プログラムは、その第一歩になるのではないかと思います。